

ダンジョンにヘラクレスなベルがいるのはマジでmistake

ひねくれ蛞蝓

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ダンまち……………それはオラリオにあるダンジョンで少年ベル・クラウネルが神ヘステイアと紡ぐ眷属の物語……………なのだ
が、

「ミノタウロス？え？この程度？」

「ゴライアス動きみてから九連撃余裕でした」

この世界線のベルはあのf a t eで幼女大好きやつちやえ系サーヴァント、ヘラクレスの力を宿してしまった!!!

これは一風変わったもう一つの眷属の物語

目次

プロローグと0. 2話くらいのもの	1
ファミリアに入って教会で愉悅を探してしまった1話	4

プロローグと0・2話くらいのもの

ベル・クラネル

この言葉を聞いて大体のダンまちファンの説明は「小さくて白兔な女たらし主人公」

で要約できるのではないだろうか

さてそんなベル・クラネルだが

この世界線では色々違った方向に出すぎたと言わざるを得ない

ギリシャ最大神、ゼウスの息子

たとえ義理でも、ベルが分かってなかったとしても

その可能性を引いてしまった。

そう、ゼウスの息子の力が宿ってしまったのである

ここで、そうここでまだヘファイストスのような一生暮らしている力なら分かる

しかしよりにも寄って宿った力は

「……………これは不味いのう」

ギリシャ最大の英雄であり、苦難の連続しか無かった男

――ヘラクレス――

ーこれはギリシャ最大の英雄の力を宿してしまった故に苦難に悩まされるとある世界線の眷属の物語

◇ベルの日記

ある晴れた日

今日から僕は日記をつけることにした

冒険の記録の一日目という事だ

三日坊主にならないように気をつける

今日、僕はついに村を出て冒険者になりに行った

「なりにいった」というのはおかしいかもしれないけど

冒険者になるには手続きが色々必要で、それ以前にまずファミリア

に入らなきやならない

それにオラリオに行くには2日近くかかるから「なりにいく」というのは間違つてはいないはず

とりあえずファミリアに入って、目指せハーレム!!!

………女の子にいつも逃げられないようにすることから始めなきやいけないけど

ああそれと道中にモンスター出てきた

コボルトとかだったから瞬殺したけど

産まれたばかりの時に頭を握りつぶした事があるらしいコボルトにこの年になって負けることはまずない

てか見た瞬間逃げたけど。追つて叩き潰すと馬車の人に「初めてモンスターに同情したわ」って引き攣った顔で言われた。

何でさ。

初めまして蛞蝓（ナメクジ）です

勢い余つて書いたものですので駄作とは思いますが

暖かい目で見てくれればなと思います

更新は不定期だと思いますが……… 完結できるようにオリ

展開で頑張りたいと思います

ベルのステータス

身長 176cm

体重 110kg（筋肉は全てを変える）

ヘラクレスの力が宿っているベル（フェイト準拠）

幼い頃から数多くの武器に対し天賦の才を見せた

顔は厳つくはないが威圧感があるため初対面の人には避けられが

ち

筋力？Aですが何か？

なおヘラクレス運命もついてきているため厄介なことの度合いが

原作より酷いと思つてください

それではー

あと短くてすいません。
次回から本気出すから：(。
ω。、(。
：

ファミアリアに入って教会で愉悦を探してしまった1話

「突然だがロキファミアリアの門番はそこそこ強いレベル2とは実際十年かけてもなる者が現れるかどうか、それどころか一生かけて上がったという冒険者も少なくない

そのレベル2が門番という時点でロキファミアリアのレベルの高さが窺い知れるが、その門番の主な役目は来客の確認と侵入阻止である侵入阻止はまでも来客の確認ももちろん多い

来客が刺客という皮をかぶったものも居れば、ロキの気まぐれの客だったり、はたまたギルドの通達人だったり

気は抜けない仕事なのである

さてその門番、現在必死の形相を浮かべ今まで対応したことの無い危機に直面している。

今までここまで弩級の衝撃があっただろうか

そう目の前の圧倒的強さを見せつける男を睨んで思う

レベル2である自分は遠征組には劣るがそこそこ出来るつもりだ。幾ら何でもレベル3程度なら2人で足止めぐらいはできるはずだ。

その男の動き、目線、目つき、全てがその冒険で鍛えた目で追えない

「そろそろやめて欲しいんですが……………なんで入れてくれないんですね……………」

男は呆れた口調で言う

「馬鹿野郎。たしかにためえは強い。その動き、その力、確実に俺らを超えてると言っている。入団希望ならふつうに入れてる」

門番は忌々しそうに吐き捨てる

「だから入りたいと申ししてるんですけど……………怪しいものも持っていないですし……………」

「そうだな……………持っていないわ……………持っていないことが問題なんだよ……………見りゃわかるよ。」

「……………結局どこもダメか……………」

気が沈むなあ

ほかのところ行くとどこの門番もNO出すし

女の門番の人とか「ダメ、ダメなの、いやそのこんなところでそんな……………」

とか顔赤くしてうわ言呟くしどうしろってゆうんだろう

服買うほどの金も今は無いしなあ

※この世界のベルは筋肉すごいですがヘラクレスほどごつい訳ではなく程よい筋肉質ムキムキイケメンです

女性に紳士なためとても男優感あります（）

「腹もすいたなあ……………ん？」

落ち込み過ぎて気づかなかったが誰かつけてるな……………

足に力を込めて……………一気に後ろに飛んで近づく!!!

「え、ちよつま、ひゃあ!!」

「さつきから何のようかな？」

いやそのえっと……………と何やらいいながら

少し落ち着くと一つ

「その、ファミリア探してるってほんとかい？」

ん？この感じはまさか……………

「ああそうだが」

「そ、その僕の眷属になつてくれないかな」

……………驚いた神様から誘われるとは

「さつきから断られてばかりの男だぞ？」

「それは君がまともな服がないからなんだろう？さつきからつけててわかったよ。どうだい？」

……………焦って冒険者になるつもりもないが、服を買う金もないのも事実。それにどんな所にいろいろと有名になればいいか……………それに

「こんな綺麗な人に誘われて入らないとは口が裂けても言わんよ」

「な?!!!」

「よろしく頼む。名はベル。ベル・クラネルだ。」

「え、えと僕の名はヘスティア!これから宜しくねベルくん!!!」

「—こういう方が冒険譚らしくていいじゃないか」

「……………で、このぼろ教会がファミリアで俺1人だけか神様」

「う、うう仕方ないじゃん……………これでも中は綺麗だよ」

ついたはもののほんとにボロい

改築する金とかも集めねばな……………

「あ、そうだここの教会の神父さんにも挨拶しよう?僕の相談にもよく乗ってくれたんだ」

「ふむ、神父か……………なら早速」

「その必要はない」

!!!

この気配……………

「……………上か」

「ほうこの距離で私の気配がわかるかね……………まあそう警戒しなくてもいい。」

……………ここの神父をしている言峰綺礼だ」

この人……………何故か見た気がする。神父、愉悦、麻婆、グツ

なんだこの感覚!!!

「なにこれからちよくちよく顔を合わせるとは思うがよろしく頼むよ」

「……………ああ」

この人……………気をつけないとやばいかも……………

「それと麻婆豆腐を作るのだからいるかね」

「遠慮しておく」

この時の心眼(偽)のお陰で俺はあの愉悦麻婆を避けることが出来、

ヘステイアは喜んで食っていたのを見て僕は神様をほんとに神様だと少し見直したのは内緒だ